

宗谷支部の活動状況

- 1 研究大会等名称 令和6年度宗谷管内高等学校教育研究会教育相談部会研究協議会
- 2 事務局校 北海道浜頓別高等学校
- 3 実施日時 令和6年10月8日(火) 13時00分～16時30分
- 4 実施場所 北海道稚内高等学校 会議室(稚内市栄1丁目4-1)
- 5 参加人数 9名

6 実施内容

(1) 講演

講師 北海道立教育研究所学力向上調査部研究研修主事 梅原 渉 様

演題 「これからの時代に求められる生徒指導～人間関係力の構築～」

《要旨》

生徒指導とは、児童生徒が社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動である。生徒指導は重層的な支援構造となっており、その中でも「発達支持的生徒指導」は、特定の課題を意識することなく、全ての生徒を対象に、教育課程内外の全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤となるものである。教職員による生徒への日常の働きかけ全てが生徒指導であるという意識を持ち、生徒指導の充実を図ることが重要である。

不登校は問題行動ではなく、多様な要因・背景が複雑に関連して起こること、取り巻く環境によってどの生徒にも起こりうるということという基本的な考え方の下、未然防止に向けて、安全・安心で「楽しい」と実感できるような魅力ある学校づくりや生徒のコミュニケーションスキルを高める取り組みを組織的に進める必要がある。また、登校という結果のみを目標にするのではなく、生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立することを目指すことが望ましい。

教育相談の基盤となるカウンセリングの考え方や方法は、生徒理解において有効な方法を提供する。日常的な指導の中で、生徒理解の深化、教師と生徒・保護者との信頼関係の構築、全教職員が一体となった教育相談やカウンセリングを実施することが重要である。

(2) 研究発表

発表者 稚内大谷高等学校 本間 敬三 教諭

演題 「教育相談から連携した支援の構築に向けて」

《要旨》

日本最北端の私立高等学校として、仏教の精神を基調とした全人教育を行い、世の光明となる人格の養成を目指す。部活動が盛んで、生徒の約90%が奨学生で専願入学しており、稚内市外からの入学生も多い。5月連休明け頃から体調不良や遅刻・早退等が増加

し、人間関係や家庭環境、学習環境等に関する相談が多い。ＳＣが常駐しており、相談したいときに気軽に相談できる環境が整備されている。

校内の連携体制は養護教諭やＳＣが相談窓口となることが多く、管理職・学年・分掌・委員会等で連携して組織的に対応を進めている。また、福祉・医療機関等と連携し、保健室登校やネグレクト等の問題を抱える生徒を支援したケースもあり、関係機関との連携した支援の構築に努めている。

(3) 研究協議

ア 教育相談に係る課題についての検討・グループ交流

(ア)保健室登校の生徒に対する支援の構築

(イ)相談する場所と時間の確保

(ウ)キーパーソンのいない家庭の生徒に対する支援

(エ)卒業後の進路先への申し送り・支援の継続

イ 助言

助言者 北海道立教育研究所学力向上調査部研究研修主事 梅原 渉 様

《要旨》

教育相談において組織的に対応することが重要であり、委員会や学年・分掌等が連携することが望まれる。一方、保健室は個に依存する傾向が強く、養護教諭がどう接するかが全てという状況であるため、さまざまな学校の取り組みを共有して実践につなげていくことが大切である。

さまざまな支援を必要とする生徒に対して、どのように学びの保障を進めていくか、支援体制を構築する必要がある。遠隔授業の提供や単位認定など、細かい部分を学校として制度化し、生徒の不利益にならないように取り組んでほしい。

宗谷管内高等学校においてＳＣが常駐している学校は特殊であり、月に１～２回ほど来校しているのが現状である。生徒の「今、困っていることを聞いてほしい」というニーズに対して、タイムリー性を持って対応することが課題である。オンラインカウンセリングの実施など、教育相談体制の構築を検討してほしい。

学校・家庭・地域の支援体制を構築することにより、学校では気づけなかった生徒の様子を知ることができる。特に家庭での様子は、想像以上に学校からは見えないケースが多い。アンケート調査等で家庭の状況について可視化できるような仕組みはできないか検討し、より学校と家庭の連携を深めてほしい。

7 その他

8 次年度の支部事務局校

北海道利尻高等学校